

## 「60代からのライフステージ」



樋田千史教育委員

学校訪問や管理職との懇談を重ねてきました。話題に上る共通点は若手教員が多いということでした。また、その学校での勤続年数が少なく、教員の入れ替わりが早いことも分かりました。各年代層の人数には多い少ないがありますが、どの年代層の方はみえます。現職のころ、ライフステージの話をしていたことを思い出します。「VSOP」と。

- ・Vは20代：バイタリティ＝情熱をもって取り組む
- ・Sは30代：スペシャリティ＝専門的になるものをつかみ実践する。
- ・Oは40代：オリジナリティ＝独創性を追究する。
- ・Pは50代：パーソナリティ＝人格者たれ

定年退職までの教員のステージとしての一例でしたが、年代を重ねるにつれて教員としての資質の向上をつかんでもらうためのことでした。管理職の会合でも話していました。特に管理職は学校運営に全力を傾注する立場にあります。若手が多くいるのならそれをプラスにとらえ、何ができるかを構築していくことです。逆に中堅以上が多い場合、何をどのように生かすかを考え、実行していくことです。このようなことを思い出しました。

今私は60代になりました。さて、60代は何だろうと自問することがあります。お世話になったことに對して、恩返しをと地域貢献とか。しかし、できることは限られています。すべてを受け入れることはできない状況です。友人のそのことを話すと、「好きなことをやったらいい」と答えてきました。それもいいかなと思いました。でも結論は出ていません。

言えることは、まだまだ学ぶことが多いということです。諸先輩に限らず、若者から学ぶこともあります。そう思うと人生学び続けることかもしれません。その中でも、気を付けたいことは、「人にされて、言われて、嫌だったことは他人（ひと）にはしない、言わない。人にしてもらってうれしかったことは他人（ひと）にもする。」という心構えです。

60代、それ以上の年代になっても学び続ける、これが私のライフステージかもしれません。

\*\*\*\*\*

### 中山道大井宿に新たな観光拠点を整備中！

（生涯学習課）

中山道大井宿は、中山道六十九次のうち、江戸から数えて四十六番目の宿場町で、江戸時代後半には、美濃国にある中山道の十六の宿場の中で、もっとも繁栄し、そこかしこに往時の面影が残っています。

整備を進めている「明治天皇大井行在所」は、当時、天皇が外出された時、仮の御所を行在所（あんざいしょ）と言ひ、明治13年に天皇がお泊りになった建物が、大井宿には今なお現存しています。

この建物は、大井宿の中でも大規模な旅籠兼商売屋で、明治天皇が民衆視察の一環で泊まることとなり、部屋や風呂、便所が新たに作られ、今の形状となっています。

大井行在所は、大井宿内に残る数少ない歴史的建造物で、かつシンボリックな施設であることから、地元からも整備と活用の要望が出されていました。本年度から「文化財」の保存・継承・活用、「観光」と「地域」の交流の場を施設整備のコンセプトとして、事業を展開しています。



▲現在の明治天皇大井行在所外観

## えないっぱい給食で笑顔っぱい

(恵那市学校給食センター)

小・中学校の学校給食は、毎月19日を「ふるさとの日」として恵那市産、岐阜県産の農産物を取り入れて提供しています。本年度はさらに地産地消を推進するため、このうち3回をこれまで以上に地元の食材をふんだんに取り入れた「えないっぱい給食」を実施しました。

えないっぱい給食は、「食べる」に重点を置いた主要事業の一つで、地産地消を推進するとともに、地域の食材や文化を知り、食に対する感謝の気持ちや地域の良さを学ぶことを目的としています。

7月18日の1回目は「エーナチキンカレー」の主菜と2点の副菜、デザートには「柚子はちみつ寒天ゼリー」が提供され、東野小学校で市長と農畜産物生産者が出席して試食会が行われました。10月21日の2回目は、「味噌カツ」の主菜と2点の副菜、デザートは恵那南高校と恵那川上屋がコラボした「栗きんとん」で、明智小学校では子どもたちが栗きんとんの絞り体験をしました。11月19日の3回目は恵那農高生の考案した「鶏肉のえごまみそかけ」の主菜と2点の副菜、恵那農高と銀の森がコラボした「さつまいものプチシュー」がデザートとして提供され、恵那市議会議員と副市長が試食しました。午前中には、恵那農高生が給食センターの調理室に入って調理実習も行いました。

令和2年度も3回予定しています。よりおいしいえないっぱい給食を提供していきます。

\*\*\*\*\*

## ポーランド文化を知ろう！ 大使館書記官によるプレゼンテーション

(スポーツ課)

恵那市ホストタウン推進実行委員会では、令和2年2月16日に恵那文化センターで行われた、第30回恵那市伝統芸能大会に合わせ、駐日ポーランド共和国大使館書記官のマウゴジャータ・シュミットさんをお迎えし、ポーランド文化を知るプレゼンテーションを実施しました。当日は二部構成で、一部は2階多目的研修室に立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。二部は大ホールステージにおいて、ほぼ満席の中、実施していただきました。シュミットさんからはポーランドの概要、日本とポーランドの友好関係の歴史、日本・ポーランド国交関係樹立100周年、ポーランドの魅力と歴史上の有名人、なぜポーランドは親日家が多いなど、流暢な日本語で分かりやすく教えていただきました。



▲世界遺産「聖マリア教会」(クラクフ)



▲シュミットさんによるプレゼン

また、ロビーではポーランド文化を伝える民族衣装とパネルの展示、ポーランド食器・チョコレート等の販売も行われイベントに華を添えました。7月には、ポーランドカヌーチームの選手、スタッフが東京オリンピック事前キャンプのために恵那市に滞在予定です。市民の皆さまに少しでもポーランド文化を知っていただき、みんなで、おもてなしの心でお迎えしたいと思います。今後も、恵那市とポーランドとの交流につながるさまざまな企画を展開していきます。



▲ロビーでポーランドを紹介